

「めぐみちゃんのまちづくりだより」

市民と農家の宝ものいけやきの里のめぐみです。~

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。事業の一環として、市民と農業のふれあいの場『農のアトリエ「蔵の里」』が中町に平成25年4月に整備されました。

事業の ねらい

昔の農の風景や農具の展示空間、交流スペース、情報交換、 勉強会等の場として活用する。 事業の 効果

市民がまちの農業を知り、「農」をテーマとした交流拠点となる。

|| 農のアトリエ「蔵の里」とは?

農のアトリエ「蔵の里」は蔵を景観シンボルとした保谷駅南部エリアの交流拠点です。施設は昔ながらの蔵と三和土のテラスで構成されており、主に蔵の中では昔の農具の展示をしています。テラスでは昔の市内の農業の様子や風景の写真を展示したり、農業をテーマとした各種事業やイベント会場として活用します。また、テラス内に設置された井戸は、災害時には震災用井戸として活用します。



蔵の里の正面には蔵の里を紹介する看板と、市内の農に関するお知らせを掲示する掲示板が設置されています。



テラスに配置されている椅子は 収納を兼ね備えていたり、壁面の 椅子の背もたれ上部には写真が展 示できるように工夫されていま す。テラスの床は三和土で、とて も固く踏み固められており、独特 な雰囲気を感じます。



停電時にも揚水が可能となるように発電機も配置された井戸は、 「震災用井戸」としての指定を受けています。また、地下水は年中変わらず一定の水温を保っているため、夏は冷たく、冬は温かく感じられます。





蔵の1階には現在、昔の帆前掛けが展示してあり、 今後は昔の農具等も展示していきます。2階からは、富士町に広がる畑の風景が望めます。

2 「西東京市の農業《知っとくスクール》」

5月7日(火)に碧山小学校3年生を対象に、市内の農業を伝える課外授業「西東京市の農業《知っとくスクール》」を開催しました。総勢81名の3年生の生徒が2回に分かれて、蔵の里で市内の農業について学びました。

今回の課外授業では、蔵の里及 び隣接する農業体験農園「トミー 倶楽部」を主宰する農園主の冨岡 さんが講師となって、配布した冊子 「教えて!めぐみちゃん!」と実際 に畑で作物を見せながら、児童達 にわかりやすく市内の農業につい て説明をしました。



「教えて! めぐみちゃん!」



- Q 西東京市には、畑がどれくらいあるの?
- A まちの面積の約1割(10%)だよ!
- Q 農家さんは、何軒くらいるの?
- A 西東京市の約9万世帯の内、約280世帯だよ。
- Q まちの畑では、どんな野菜ができるの?
- A 一番たくさん作られている野菜はキャベツで、 2位がコマツナ、3位がホウレンソウだよ。
- Q 果物はどんなものがとれるの?
- A 第1位はナシで、ブドウ、キウイフルーツの順番だよ。
- Q 花や植木は?
- A 多摩26市で花の出荷量は第5位、植木 の出荷量は第6位だよ。





テラスに展示してある写真からは、昔の畑での作業の様子や昔の蔵の使い方の様子が分かります。普段見慣れない白黒の写真を児童達も大変興味深く見学していました。蔵の中では、開口部の小さいな蔵の扉を閉じて、内部がどのくらい暗いのかを体験しました。

富岡さんへの質問业

児童達からの冨岡さんへの 質問を一部紹介します。



- **Q** 蔵の良いところは何ですか?
- ▲ 懐かしい田舎を思い出すような、のんびりとした気持ちになるところです。



- Q畑では年間何種類の野菜を栽培していますか?
- ▲40種類以上の作物を栽培しています。
- Q 畑で困ることは

何ですか?

▲ 強風が吹くと作物が倒れ たり、土ぼこりが舞いま す。特に露地野菜の出来 は気候に左右されてしま うので難しいです。

- **Q** どうして蔵の里を作ったのですか?
- ▲ 昔の農家は、結婚式等の行事で大勢の人を家に招くことが多く、道 具や食器等がたくさんあったので、蔵を主に収納場所として活用し ていました。蔵を活用して地域の人に昔の農業や地域の様子を知っ てもらえれる場にしたいと思いました。



西東京市では、貴重な農地を残していくために、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用した、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」をすすめています。『農のアトリエ「蔵の里」』は本事業の支援を受けています。

発行:西東京市 生活文化スポーツ部 産業振興課

3 今後の予定

蔵の里では、今後も「西東京市の農業《知っとくスクール》」の継続 開催を予定しています。また、実際に畑に避難して、震災用井戸の使い 方を学んだりする「畑の防災訓練」も実施する予定です。